

母から娘へ、娘から孫へ 時代を超えて椿油の良さを伝える 大島椿

オオシマツバキ 椿油

古くから日本各地に自生していた椿は幅広く資源活用され、日本人の生活に係わりの深い植物といえる。種子から採れる椿油は「延喜式」に租税として集められたことが記録されており、役所や宮中において燈火の油などに使われた。奈良時代には食用としても用いられていたことが分かっている。

椿の島、伊豆大島に自生する椿から採れる黄金の油を広く世に紹介したのが創業者の岡田春一だ。島を訪れた際、美しく雄大な自然に感動し、島の発展、開発に一生を注ぐ決意をした岡田は、1927（昭和2）年に大島椿を創業。椿油の良さを伝えるため少量の量り売りから始め、数年後には一流品ばかりを扱う百貨店へ商品を納めるようになった。その後も様々な販路開拓を積極的に続け、戦後は大島のアンコさんたちと共に全国の都市を回る販促活動を行ったことで日本中に浸透。品質にこだわり、ヘアケア、スキンケアに使える「大島椿」は発売から90年以上経つ現在も、母から娘へ、娘から孫へ、時代を超えて愛されている。



皮脂と同じ成分を多く含むため肌に自然になじみ、刺激が少なく、肌にやさしい



「大島椿」は椿の種子を搾って得た100%天然の椿油